

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472900345		
法人名	社会福祉法人洗心福祉会		
事業所名	阿児認知症対応型グループホーム 真珠荘		
所在地	三重県志摩市阿児町鶴方3503-10		
自己評価作成日	平成30年9月15日	評価結果市町提出日	平成30年11月 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kihon=true&JigvoNoCd=2472900345-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 30 年 10 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

元保養所を活用した施設となっています。居室は8畳と10畳の個室となっておりゆったりとお過ごしいただけます。建物自体が大きく食堂なども開放的で目の広い庭もあり明るい空間となっています。
ご利用定員は7名の少人数となっており、ご利用者様のペースに合わせた支援が出来るように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然を生かした街並みと敷地内に広大な庭園があり、安全で快適な生活を送れる環境作りがされており、居室は旅館の様で全室が畳の和室で大変広い。職員は5年以上の介護支援の経験者が多く、理念の「ぼちぼち」を共有し、親と同じ様に思い毎日のケアの中で、いろいろ身近な事を教えてもらう事が楽しみであり、尊敬しつつも寄り添うケアを目指して、まず見守りからゆっくり相手の気持ちを良く聞いて、利用者と共に日々を楽しく過ごす様に支援を続ける事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個性を生かし、敬意を持って、ぼちぼちと」を理念にご利用者の支援にあたらせていただいている。ご本人様の今出来ることを行って頂く事で自信をもち生活していただけるように支援している。	玄関のホールには、利用者と数珠玉・卵の殻で作った理念が飾られ、急がせず・あわてず・ゆっくり・のんびりの気持ちを常に心に抱き、個性とその行動を尊重して日々ケアの中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の清掃活動や、避難訓練などへ参加している。	年2回の地域清掃、防災訓練、自治会の忘年会、文化祭、保育園幼稚園児との交流も大切にしている。また、外出時には近くの住人の方に声掛けし、挨拶を交わし日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、地域の情報の交換や、情報発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際には、施設の状況や、困りごとなどを報告することで、助言頂いている。	市担当者・老人会副会長・民生委員・別荘自治会長・知見者(介護サービス協議会)が参加し、事業所の状況・行事・職員研修報告を行ない、各参加者から質問・意見・情報の交換が行われ年6回開催されている。	運営推進会議には、利用者・家族の参加が望まれる。会議の意義、開催日程の調整、議題の内容等、参加に結び付ける工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加して頂き、施設の状況の報告や、市の研修などへの参加を通し顔の見える関係作りを行っている。	介護保険制度や日頃の相談等に訪れたり、市からは福祉関係の講師の依頼がある。また、市主催の研修会に参加したりして、協力関係を築く様に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議の際にミニ研修を行い、身体拘束についての知識を高めている。玄関については死角が多い作りであり、他事業所の出入りも多いことから施錠を行っているが、気候の良い日は散歩や買い物へ出掛けている。	毎月の職員会議で、身体拘束ゼロの指針で拘束をしないケアの再確認を行なっている。常に寄り添う介護を行ない、見守りに徹している。また、運営推進会議でも取り上げ、参加者へ説明し意見を聞いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年職員会議の中で虐待防止についての研修を開催し、様々なケースの虐待について学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象となるご利用者様はいらっしゃるが、研修などに参加学ぶ機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に、重要事項の説明を行い同意を頂いている。制度改正時の利用料金の変更についても説明し同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	支援内容の変更や、体調に関してご家族様への連絡と面会の際にも施設でのご様子を伝えその都度意見を頂戴している。	面会時、電話等で意見・意向は聞いているが、通信だよりにより職員・利用者の一言を書き入れ、意見の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し業務の見直しや、運営に関する意見を確認する機会を持っている。	毎月の職員会議で意見を聞く場があり、業務改善・ケア支援の見直し、利用者の思い・意向を実現させる提案等の意見が出ている。また、上司との面談(人事評価等)が年3回あり、意見・提案を聞く機会があり反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を活用し、目標設定や期待値を話し合い、年間を通して取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3ヶ月に1回の研修会のほか、法人内違う事業所で1日実習を行う人事交流を通して、スキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	志摩市介護サービス事業者連絡会へ加入し、定期的な研修会への参加と、地域の病院関係者、介護事業者で地域ケア研究会を開催し事例検討などをおこない意見を交わしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ご本人様、前任の介護支援専門員からこれまでの状況や、自宅での生活パターン等を聞き取り安心して入居に繋げられるように関係作りを進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談の際に自宅での状況の聞き取りや困っていることを確認させて頂き、場合によってはご家族とご利用様と別々に聞き取りを行うなど工夫している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談内容をもとに必要とされるサービス内容を職員で話し合い、安心して入居していただけるように取り組んでいる。必要と感じた際は他のサービスも検討させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物や食事の準備、片付け等お互いが協力して出来るように声かけ行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人との関係の保持の為、ご利用様の今の状況を受け入れてもらえるように、今出来ることをご本人とご家族と一緒に取り組んで頂き状態をわかって頂く事で関係を保持していけるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族や友人の方が来た際は居室でゆっくり過ごしていただくなど、落ち着いて話すことのできる環境作りを行い面会に来やすい雰囲気作りを心掛けている。	友人・知人の訪問時は、和室で本人とゆっくり過ごせる場と時間を提供し、家族となじみの病院、お墓参りに出掛けている。また、長男の仕事場に見学に行く利用者もおり、家族の協力で関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用様の性格や、認知症の状態に合わせ座席を工夫している。ご利用者様同士の関係が良くなるように職員が介入し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際は、施設での様子をお伝えできるように情報提供書の作成を行っている。必要時は退居後も可能な範囲で協力させて頂く。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月カンファレンスを行い、ご利用者様の意向や、言葉には出ていない希望を把握出来るように検討を繰り返している。	表情・しぐさ等、普段のケアの中で会話を通じて把握している。また、一対一になる入浴時・外出時・夜間などにも表出される事もあり、把握した希望・意向は連絡ノートに記入し、カンファレンス時に職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査や普段の話の中で、これまでの生活環境や自宅での生活スタイルを聞き出しサービスに繋げられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の記録にその日の様子や健康状態を記載し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い事業所内での話し合いを持ち、ご家族様へ相談や協力を頂きながら計画を作成している。	家族の意向・意見は、面会時・電話等で聞いている。職員は支援状況を毎日会議記録に記入、モニタリングを毎月行っており、3ヶ月毎に職員・看護で検討し現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録に健康状態や日々の様子の記載や対応についての記録を残している。また、連絡ノートを活用しタイムリーに対応の変更などが分かるように工夫をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対応出来るように職員間で対応を検討し、ご家族にも協力を頂きながら可能な範囲で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物などは行く機会はあるが、地域の方々とのつながりについては少ない状況であり、今後地域の催し等へ参加し地域の一員として生活出来るように支援していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より通われている病院へ受診をすることでこれまでの支援が途切れない様に努めている。	かかりつけ医は全員、今までの病院であるが、受診は主治医に健康状態を持参し事業所に対応、変化があれば電話で家族に報告している。看護師は日々の健康状態をチェックし、筋力リハビリを行っている。また、主治医は24時間連絡体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム配属の看護師と連携を取り日々健康管理に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者が出た際は情報提供書を持参し連携に努めている。また、日頃より事例検討や病院主催の勉強会へ参加し顔の見える関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化における指針を説明させて頂きご理解いただいている。体調の変化に合わせてその都度主治医、ご家族様と相談を行いながら支援させて頂いている。	契約時に家族に指針で説明をして意向は聞いているが、医療体制が整っていないので終末期ケアは出来ないのも、その状態に陥った場合は主治医の指示で再度、家族と今後の対応方針を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年介護サービス事業者連絡会開催の救急救命の研修に出来る限り参加し心肺蘇生やAEDの使用について研修を受けている。緊急時対応マニュアルを作成し事故発生に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震を想定した避難誘導訓練を定期的実施している。また、地域の防災訓練にも参加している。	年2回、消防署立ち合いで火災、地震想定で通報・消火・避難訓練を避難場所(庭、玄関)を決めて実施している。備蓄・備品(保存食一週間分、水、防災頭巾、防災ライト)を用意している。また、自治会の防災訓練に参加し住民の協力を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のペースに合わせてしまうととまらざるむずかしいところもある。職員が忙しいとつい急かしてしまうところもあるが、カンファレンスを通じ対応を毎月見直している。	個人の意向・思いを大切に、抑制しない声掛けを行っており、心地良い言葉づかいにも心掛け、呼称はさん付けで行なっている。また、プライバシーと個人情報の保護について事業所内で研修を取り入れている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	更衣等ご本人の希望を聞きながら選択できるように支援している。自分から希望される事が少ない現状もあり会話の中から本人の思いをくみ取れるようにこれからも努力していく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を伝えられる方は可能な範囲で対応しているが、ご利用者様の重度化により難しい部分もあり、こちらから声掛けを行い希望を聞き出し支援させて頂いている所もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などはご自分で選んで頂いている。難しい方はこちらで季節や場所にあった物を選ばせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の嗜好に合わせて代替品の提供を行っている。準備・片づけも出来る範囲で行っている。	食事は冷凍された食品を微調整して、利用者個々に合う様に工夫している。農園で取れたサツマイモ等はおやつとして一緒に作ったり、正月・雑祭り・クリスマス・敬老の日は外注で特別に取り寄せており、楽しみの一つとなっている。利用者は役割に応じてテーブル拭き、食器洗い、食器拭き等を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によりカロリー計算された食事を提供している。食事形態もその方の状態に合わせたものを提供している。毎食時食事摂取量のチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しその方のリズムに合わせて個別に声かけや誘導を行っている。	個々の排泄チェック表を職員間で共有し、個々に声掛けトイレに誘導している。また、毎食後全員に声掛けし意思確認を行っており、夜間にポータブルトイレを使う利用者もいるが、誘導時間等は適切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や毎日の運動を通して排便が促されるように取り組んでいる。必要な方には主治医と相談し排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ボイラー設備の老朽化により入浴日は固定させて頂いている。場合により個別で対応させて頂く事もある。	基本は週3回、午前中に全員入浴をしているが、湯舟に入れない方はリフト浴があり、入浴剤や季節湯(菖蒲・柚子)を使い、全員がゆったりと入浴を楽しむ支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて日中も休む時間を設けたり、これまでの生活習慣で布団で休まれている方もみえる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	所属の看護師により服薬管理を行い何かあった際は主治医へ相談し指示をもらっている。薬の変更などがあった際は連絡ノートなどで周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人その人に日常の中での役割を持ってもらっている。また、職員と一緒に作業することで全員で取り組めるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等個別で対応している。会話の中で行ってみたい等の希望があれば実現できるように計画を立てている。	日用品、食材の買い出し同行、花見(桜・あじさい・コスモス)、同法人の行事(祭り・保育園児の慰問等)に参加したり、庭でのおやつ時間、また、農園の収穫にも出掛け、少しでも外出の機会を増やす様に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用様の必要なものは出来る限り一緒に買い物に出かけている。支払いが可能な方は支払いも行って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に発行している新聞に各ご利用者様にコメントを書いて頂いている。定期的にご家族より連絡頂き電話で話される方もみえる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用様が製作された壁飾りや季節の花を生けるなど季節感を感じて頂けるように日々工夫している。	広々したりビングの天井には吹き抜けが作られており、玄関ホール、食堂の壁には利用者で作った季節に応じた作品、カレンダー、理念が飾られている。また、掃き出し窓からは芝生の広場、季節感ある数々の木々に囲まれた庭園が眺められ、落ち着きのある空間が工夫されている。トイレ・浴室も清掃が行き届いており、室温・湿度もその日によって調節され住環境の整備がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各所にソファや椅子を設置し思いおみの場所で過ごして頂ける様に取り組んでいる。居室も広い為ご家族などたくさんの方の面会がある際はお部屋で過ごしていただくこともある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活環境に少しでも近づける為に自宅で使用していたものの持ち込みをしていただいている。自宅の環境そのままの布団で休まれる方もみえる。	広い和室にベッド、押入れが備え付けられ、温かい雰囲気となっている。テレビ・家族・孫等の写真がバランス良く飾られ、入居前と変わらない居室を創り出している	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や階段昇降機、場所が分かりやすいような掲示等安全に生活が出来るように支援している。		